



氏子の隆昌を祈願して 頼成林神社 歳旦祭

延喜式内
平成二十六年は、少しばかり星空の見えるまですずの天候に恵まれて明けました。例年通り午前0時消防団の方々が消防車で到着、新年のお祓いを受けられました。
やがてかがり火の焚かれ凛とした空気の張りつめた境内に、三々五々初詣の人たちが訪れはじめました。午前五時から歳旦祭が齋行され、合わせて喜寿、古希、還暦、厄年の方々のお祓いが行われました。
式後林芳光宮司さんから、歳旦祭の齋行に当たって宮委員さん方の並々ならぬ尽力があったことへの謝辞と、あわせて氏子



各位のいつそこの弥栄を祈念するとのご挨拶がありまして。なお当日お祓いを受けた方々の通名は次の通りです。

喜寿

林 勇夫さん
八田 茂興さん
林 扶三子さん
北條 蘇春さん
林 喜與志さん
宮下 美智子さん
齊藤 美智代さん
林 はるみさん
林 和子さん
八田 正美さん

古稀

坂東 勲さん
開田 昭夫さん
林 朋子さん
林 良雄さん

還暦

林 眞砂子さん
八田 隆友さん

厄年(四十二歳)

齊藤 淳之さん
武部 匡彦さん

厄年(三十三歳)

開田 健嗣さん
林 雅人さん

厄年(二十五歳)

齊藤 乃理子
林 準平さん



荒木靖博さん

林 秀憲さん
林 真市さん

林 準平さん

頼成 小正月の風物詩 公文名で恒例の左義長

小正月の伝統的な民俗行事である左義長が、今年も一月十二日公文名で行われました。青竹を円錐形に組み立てたお正月に書いた書き初めを燃やしたり、子ども達がお正月に書いた書き初めを燃やしたり、縁起物や餅などを一緒に焼いて一年の吉凶を占うこの行事、砺波地方では昔から十四日に行われてきました。近年は成人の日を含む三連休のあいだに行われるところが多くなり、左義長やおちよや、また日は暮れんかき、今焼くぞ、はや焼くぞと囃しながら火をつけました。鴨ボイといいつて、その年の豊作を祈る小正月の大事な行事の一つでした。
四、五日あといに大寒を迎える十五日の早朝は、しばしば放射冷却で冷え込みの厳しいことが多く、そんなときは「スンスラ」と言いつて雪の表面がカチカチに凍って大人でも雪の上を歩けるようになるので、子供達はそれこそ子犬のようになり、村中を縦横無尽に駆け回り、声を張り上げ、鴨ボイを言いました。百年の時にもわたって、その土地、その地域の独特の風土に育まれて伝承されてきた貴重な民俗行事が、次々と姿を消していき、哀しいことです。
準備やお世話したいへんですが、公文名の皆さんには、この貴重な伝統を守り続けてくださることを期待したいものです。
訂正 本紙の通算号数に誤りがありました。二月号は通算一〇七号となりますので訂正させていただきます。



夜空を赤々と染める
公文名の左義長

季節のうた
寒明けと言えど老いにはまだ明けず
林 香月子